

令和元年5月9日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02478

研究課題名(和文)ニューギニア諸言語の動詞形態調査 - マダン州おけるテンス・アスペクトの記述 -

研究課題名(英文) Verb morphology investigation of the Trans-New Guinea languages in Madang Province

研究代表者

野瀬 昌彦 (Nose, Masahiko)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：20508973

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：パプアニューギニアは世界でも言語多様性に富む地域で、そこで話される言語の文法も実に多様である。本研究では、パプアニューギニアのマダン州を中心に現地調査に基づいて、諸言語の時制とアスペクトの調査・記述を実施してきた。その結果、マダン州の言語であるアメレ語とベル語については数多くのデータを取得することができた。判明した点を端的にまとめると、マダン州のニューギニア系言語は、基本的には時制が豊かである一方、アスペクトの形式的な表現は貧弱である(ただし、数多くの例外も判明した)。アスペクトは多くの場合、語彙的に実現される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

パプアニューギニアおよびその周辺は世界でも言語的多様性が高い地域である。その地域で話される多く言語は、(日本語や英語とはかなり異なる)特殊な文法を持つにもかかわらず、その文法記述が十分になされていない状況である。

本研究では、パプアニューギニアのマダン州で話される現地の言語を数多く調査し、それらの言語で時制(過去、現在、未来)やアスペクト(完了、習慣、進行など)が文法的にどのように表現されているかを調査した。その結果、日本語や英語とは違った時間の捉え方を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：When we consider tense and aspect, the perfective aspect and the related usages are necessary feature of the grammar. This study examines tense/aspect usages of Trans-New Guinea languages and Austronesian languages, spoken in Madang Province, Papua New Guinea. However, the Trans-New Guinea languages and Austronesian languages are grammatically and lexically different each other, nevertheless, this study tries to find common tense features by contrasting these sample languages.

This study chose the four sample languages spoken in Madang Province at the north-west of Papua New Guinea. They are Amele, Kobon and several other languages in the Trans-New Guinea, and Bel and Manam in Austronesian. These languages generally have still been keeping the complicated grammar and this study has been conducting their morphological descriptions in a deeper level.

研究分野：言語学

キーワード：パプアニューギニア アメレ語 ベル語 テンス アスペクト 形態論

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) パプアニューギニアのマダン州の言語調査を事前に開始しており、以前の科研費等を使用し、アメリ語やベル語等の調査地の協力者の確保や、言語の基礎語彙の調査を実施していた。また、調査の媒介言語である英語やトクピシンの洗練や調査内容の整理は済んでいた。

(2) 言語類型論的な視点から、時制やアスペクトに関する入門書や印欧語やウラル語などの時制、アスペクトに関して、記述文法を見直し、前提となる知識を入れていた。また、アスペクトが豊富な言語であるスラブ語に関して、専門の研究者と研究の方向性に関して議論を始め、関連文献も古い年代のものを読んでいた。

2. 研究の目的

(1) パプアニューギニアのマダン州で話されている言語をいくつかピックアップして、それらの言語の時制やアスペクトの様相を形態論に着目して記述、分析することであった。候補の言語としては、トランスニューギニア系からアメリ語、コボン語、ワスキア語、シロイ語、ウサン語、オーストロネシア系言語からベル語、マナム語、ジャベム語、そしてパプアニューギニアの共通言語であるトクピシンである。

(2) パプアニューギニアの言語の時制とアスペクトの記述と分析を実施するとともに、言語類型論的な立場から、印欧語やウラル語など、世界の言語のデータを参照しつつ、通言語的な分析をし、共通の傾向とそこから逸脱する機能について議論を加える目的であった。

3. 研究の方法

(1) パプアニューギニアでの現地調査を毎夏に実施（研究初年度を除く）し、現地で調査協力者から聞き取り調査で時制やアスペクトのデータを獲得した。調査協力者のおかげで、アメリ語とベル語を中心に動詞形態論の新たなデータや多くの例文を獲得できたとともに、まだほとんど調査がなされていないオゲア語やマリク語の話者と接触することもでき、例文を収集した。

(2) 現地調査が不可能な地域については出版されている記述文法を参照し、時制やアスペクトの様相をデータベースにし、他の言語と対照可能な様式にし、分析に加えた。

(3) 時制の豊かな言語のアスペクトの様相と、時制のない言語のアスペクトの用法に関してどのように異なるかにデータを基に着目した。

4. 研究成果

(1) とりわけ長く取り組んでいるニューギニア系の言語、アメリ語については Roberts(1987)に記されているもの以上のデータを得ることができた。複雑な過去時制の様相と未来時制の例、さらにアスペクトでは完了相と習慣相に関して、多大なデータを入手し、動詞形態論を含めて記述することができた。

(2) オーストロネシア語のベル語に関しても、ニューギニア系言語との接触の結果、かなり文法的な影響を受けていることが本調査で明らかになった。例えば、バヌアツのグナ語（オーストロネシア系言語；時制なしの言語）と比べると、ベル語はアメリ語に近い、より複雑な（時制やアスペクトに関与する）動詞形態論を持つことが判明した。

(3) その他のマダン州の言語についてであるが、本研究では記述文法の質が高いコボン語、ワスキア語、ウサン語、シロイ語等のデータを分析に多く使用した、その結果、アメリ語を含め、粗いレベルでの類似はあるが、各言語での時制やアスペクトの様相がかなり異なることが判明した。その理由についても以下の論文で考察を加えた。

(4) パプアニューギニアの言語に加え、日本語や中国語、ハンガリー語やグナ語など、通言語的な考察も実施した。特に、アメリ語のように時制のヴァリエーションが多い言語と中国語のように時制を持たない言語の対照を通して、それらの言語間の時制やアスペクトの機能に関する考え方の違いを明らかにした（参照：Bybee and Dahl 1989）。

(5) 研究内容についての一般公開と他の言語での時制やアスペクトの状況を教示してもらい、議論すべく、スラブ語や他の印欧語の研究者を招いて、講演会を実施した。さらに、パプアニューギニアのマダンで働いている唯一の日本人にも講演してもらい、パプアニューギニアについての理解を広めた。

(6) 時制とアスペクトについてかなり明らかにしたつもりだが、研究の途上でムードの文法カテゴリーが絡み合っていることが判明した。このムードの様相に関しては、将来の研究で明らかにしていく課題である。

<引用文献>

- Bybee, J. R. and Ö. Dahl. 1989. The creation of tense and aspect systems. *Studies in Language*, 13: 51-103.
- Roberts, J. R. 1987. Amele. Croom Helm.

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 4 件)

(1) Nose Masahiko. Borrowing temporal expressions in New Guinea languages: a contrastive study of loanwords. 「東北大学言語学論集」第 24 号 (千種真一教授退職記念号), 査読無 , 2016: 95-104.

(2) Nose Masahiko. The Forms and Meanings of Past Tense: A Contrastive Study of Papua New Guinea. 「彦根論叢 (滋賀大学経済学部紀要)」409 号, 査読無 , 2016: 6-14.
<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/Ronso/409/nose.pdf>

(3) Nose Masahiko. A contrastive study of future tenses in the languages of Papua New Guinea. 「彦根論叢 (滋賀大学経済学部紀要)」413 号, 査読無 , 2017 : 4-14.
<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/Ronso/413/nose.pdf>

(4) Nose Masahiko. A contrastive study on past tense forms in Trans-New Guinea languages spoken in Madang Province, Papua New Guinea. 「彦根論叢 (滋賀大学経済学部紀要)」417 号, 査読無 , 2018 : 24-34.
<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/Ronso/417/nose.pdf>

[学会発表] (計 9 件)

(1) Nose Masahiko. Forms and meanings of past tense forms: a contrastive study in Papua New Guinea , The Seventh International Conference on Language, Culture and Mind, Hunan University, Changsha, China, 1st-4th June (2016 年)

(2) Nose Masahiko. A contrastive study of future tenses in the languages of Papua New Guinea. International conference titled Various Dimensions of Contrastive Studies (V-DOCS 2016), University of Silesia, Katowice, Poland, 24th, October, (2016 年)

(3) Nose Masahiko. A contrastive study of past tense forms in the Trans-New Guinea languages of Madang Province, Papua New Guinea. 2016 International Symposium on Verbs, Clauses and Constructions, October 26, 2016 , The University of La Rioja, Logrono, Spain, (2016 年)

(4) Nose Masahiko, Past tense usages between rich tense and tenseless languages: a contrastive study. The 8th International Contrastive Linguistics Conference, May 27(25-27), 2017, University of Athens, Greece, (2017 年)

(5) Nose Masahiko . A contrastive study of tense-rich and tenseless languages: The case of the future tense. 3rd Biennial Conference on Language Typology in China and the World, Shanghai International Studies University, China, July 14-16. (Jul 16.) (2017 年)

(6) Nose Masahiko, The multilingual situation in Madang city, Papua New Guinea: 200 languages spoken in the city. The joint meeting of the 15th Urban Language Seminar (ULS15) and the 2nd Symposium on the Dynamics of Putonghua (SDP2), University of Macau, Macau-China, Oct 16-17 (2017 年)

(7) Nose Masahiko, Perfective aspect in the languages of Madang Province, Papua New Guinea, The 17th International Conference on the Processing of East Asian Languages and the 9th Conference on Language, Discourse, and Cognition (ICPEAL 17 - CLDC 9) Joint Conference, National Taiwan University ,(2018 年)

(8) Nose Masahiko. Past tense and habitual forms in the languages of Madang Province, Papua New Guinea. The Conference on Asian Linguistic Anthropology, 2019. Siem Reap. Cambodia, 2019. Jan 25. (2019 年)

(9) Nose Masahiko. Perfective grammaticalization in the Madang area, PNG. The 24th

International Conference of Historical Linguistics, Canberra, Australia (2019年7月予定)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://nosemantik.hatenablog.com/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。